

1

(6・7 各完答)

1 そ 2 ② ② ⑦ ③ ④ ④
 努力 自覚 四 工

5 ア 6 だれもぐこと

7 A ア B エ 8 ウ 9 (記述題)

10 a 差 b 病気 c 案外

d 実 に

2

(2・6 各完答)

1 a 訓練所 b 希少 (稀少) c 器用

2 I 人 II 犬 3 犬は家庭 4 イ

5 ウ 6 I 氷 II 拾い III 固く IV 我慢

7 平静を装っている 8 ア

9 ライバル 10 エ 11 エ 12 愛想

1

9

お互いの経験や考えを
 交換し合って、どこまで
 なら納得して、合うこと
 ができるとかという
 共通理解の“を見出そう”
 とするもの。

(同意可)

配点	
11021	各2点×7=14点
19	6点
その他	各4点×20=80点
100点	

- ① 「その日暮らし」は「その日の収入でその日をやと暮らすこと」を意味する言葉である。慣用的な言い回しとして知っておこう。
- ② 「は」は「く」を重ねて」という言い回しを知っておこう。⑦は同段落の「でも僕たちは」以降を見るとよいだろう。「たえず振り返る」といったことを言いかえる。
- 3 数えるだけである。正確に手早く処理したい。「お金持ちの家にく」・「同じように裕福な家庭にく」・「貧しい家にく」・「努力に努力を重ねて貧しさからく」の四通りの意見が挙げられていた。
- 4 直前に「たとえば」とあるから、まずはその前で何の話がされていたのかを確認するべきだろう。すると、「どこまでなら納得し合うことができるのか、その『共通理解』を見出そうとする」とある。では、その意味に沿った選択肢とは、と考えて選ぼう。それはつまり同時に、極端に偏ったものや、自分の意見を絶対と考えるものを排除することである。
- 5 「有識者」と言われるような人であっても、「一般化のワナ」に陥っている可能性がある」と述べられているが、その例にあてはまる言説を選ぶ。イは「くであれば…」と条件を区切っているし、「く可能性が高い…」と断言もしていない。ウは科学的な根拠について述べているので、個人の経験とはいえない。エは経験をもとにした言い方になっていない。
- 6 傍線部を含む一文は必ず確認しよう。「本質」を観取することの言いかえであることがわかる。では、さらに言いかえたところがなにかとどつていくと、すぐに見つかる。
- 7 この設問でも、「一般化のワナ」に陥っているとすればどういう主張をすることがありうるかを考える。ただし、どのような人の場合かについて条件がつけられている。「激しい学力競争に打ち勝ってきた人」であればそれを肯定する意見、「学校にひどくイヤな思いをさせられてきた人」であれば学校を否定する意見になるだろう。
- 8 もしかしたら「一般化のワナ」に陥っていたかもしれない人たちが、理解を示してくれ、対話のチャンネルが開かれたのであった。「不適當なもの」を選ぶことに注意すること。「感動」は言葉としても大げさだし、笑っている人たちというより、筆者の心情に近いものだろう。プラス・マイナスだけでおおざっぱに選ぶことのないようにしよう。
- 9 「建設的」はここでは「前向き」というくらいにとらえてもいいだろう。傍線部を含む一文を読めば、「ちよっとした心構え」、すなわち「一般化のワナにひっつかからない」と考えることから生まれるプラス面を答える問題だということがわかる。「対話のチャンネルを開く」といった内容も考えられるが、字数に合わせるにはさらに具体的に考える必要があるだろう。
- 10 a 「差」の字形に注意しよう。たてぼうを左はらいまで貫かないこと。b 「病氣」は「病」の字形を丁寧に書いてほしい。バランスよく書けるようになると誤解もされにくい。c 「案外」は、「安」としないこと。d 「実」は、字はやさしいが、言葉として使えるようになっておこう。
- ②
- 1 a 「訓練所」は「訓練」を知っていれば容易だろう。b 「希少」は同音異義語に気を付けてほしい。c 「器用」も同音異義語には気を付けてほしい。また、漢字で書かれればわかる語がカタカナで書かれると意味が取りにくくなることもあるだろう。同音異義語が多い語などはとくに慎重に読んでほしい。
- 2 わざわざ「ㄱ」を付けて強調しているということは、ここでは普通の意味での弟ではないということである。どう文字通りでないかと言えは、もちろん「犬」なのであった。
- 3 とくに文学的文章では、具体的なエピソードやできごとが書かれている部分と、その受け止め方や説明が書かれている箇所を分けて読めるようになってほしい。そのような読み方（見え方）が身につけていると、やみくもに探さずとも見当がつきやすいだろう。この設問でも、兄妹というような家庭内での序列（ヒエラルキー）の話であることがわかれば、書かれていた箇所はすぐに見当がつくのではないか。
- 4 鼻先に柿の種を近づけていたずらをしたエピソードから考えているのである。アは飼育犬であり「野生動物」とはいえないので外す。
- 5 「不適當」を選ぶことに注意する。おこぼれを食べてくれることからいえることを考える。残飯で済むからお金はかからないし、ゴミも減るから自然にやさしいともいえるだろう。また、「ヒョイと投げる」だけでいいところからも考えれば、残るものはひとつだろう。「行儀がよい」は「エコ」という言葉とは結びつかないだろう。
- 6 II・IVが内容的な軸になる部分である。IIIは「で」だけ見えているのがかえってわかりにくくなっているかもしれないが、IVから逆算するか、「口を」の部分から考えるとよいだろう。「我慢」している様子を表す言葉を探すことになる。
- 7 「いかにも」とあるので、実際には「自然体」ではないのである。また、同様の悪さをしているところを優先的に探すという方針も立てられるとよいだろう。
- 8 直前にあるように「熱で退屈で心細いときに犬の存在は大きい」、つまり、「心細かった」というところを中心にして考えよう。心細いということは病気であることは感じているのだから、イの「すっかり忘れる」は言いすぎだろう。
- 9 そもそもこの部分は何の話であったかを思い出そう。「妹分でもあり、ライバルでもあった」。「引つ張り合う無言の攻防」という表現に合うのはもちろん「ライバル」だろう。
- 10 こういった空所補充形式の問題では「相変わらず」といった、前の箇所とのつながりを示す言葉の前後が空所にされることが多い。その場面の状況を考えて、ここより前の箇所と同様のものを探せば答えが決まるからである。「にぼし」を見てどうなるのであったかと考える。
- 11 状況ともあわせて考えてほしいが、基本的には言い回しとして知っておいてほしいものである。
- 12 やれやれと思いつつも相手にしてくれるのである。このようなハリーの性格を表す言葉を優先的に探したい。愛想のいい犬なのでどこでも人気なのであった。